

# うちどく おすすめ絵本リスト

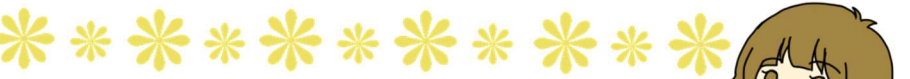
2023.4～2024.2

小学校  
高学年版

この一年で図書館司書が毎月紹介した  
絵本をリストにまとめました。



「うちどく(家読)」とは、家族で同じ本を読み、  
その本について話し合うことです。  
「うちどく」で家族のきずなを深めましょう！



●うちどくをはじめると、まずは絵本がおすすめ！●

絵本は短い時間で読める上に、文章や絵、読む年齢によっても  
様々な感想を持てるので、幅広い年代と一緒に読む「うちどくの  
本」として最適です。



●毎月第3日曜日は「うちどくの日」●

毎月第3日曜日は「うちどくの日」です。週末(金曜日・土曜日)も含めて「うちどく」に取り組み、家族のコミュニケーションを深めるとともに、読書習慣を身に付けていきましょう。



大洲市立図書館(東若宮)うちどくコーナーでは、毎月各年齢層1冊ずつ、図書館司書がうちどくにおすすめの絵本を紹介しています。



1月  
おによりつよい  
およめさん  
井上 よう子/作  
吉田 尚令/絵  
岩崎書店  
2013年 ¥1300



山奥に一人で住む乱暴者の鬼は、村へ下りてきてはいつも大暴れ。ある日、飯炊きや掃除洗濯をさせるための嫁がほしくなった鬼は、「村一番のおなごをよこせ！」と村人をおどします。その言葉に、名乗りを上げた娘は、腕っぴしなら村一番で…。いろいろな夫婦の形、家族の幸せについても考えることができる絵本です。



12月  
ほっきょくで  
うしをうつ  
角幡 唯介/作  
阿部 海太/絵  
岩崎書店  
2022年 ¥1700

海に浮かぶ巨大な氷の世界、北極。お腹がすいた探検家の「わたし」の目の前に現れた、ジャコウウシの群れ。鉄砲に弾を込めて仕留めたのは、生まれたばかりの仔牛を連れた母牛でした。母牛の解体を終えた「わたし」に、仔牛が「ビエー！ビエー！」と突進してきて…。生きていくうえで忘れたくない光景がえがかれています。



2月  
ことばとふたり  
ジョン・エガード/ぶん  
きたむら さとし/え・やく  
岩波書店  
2022年 ¥1600



ことばを知らない生きものと、ことばを知っている生きものが会おうお話。「ことば」がなくとも、表情や動きで気持ちは表現でき、私たちはそれを感じることができます。そこに「ことば」が加わると、より相手に伝わり、共感することができます。でも、「ことば」が全てではなく、なくてもよい時があることも教えてくれます。



現在購入できる版の出版年を掲載しています。  
価格は2024年2月現在の本体価格です。

掲載については出版社の承諾を得ています。  
無断で転載することを禁じます。

2024年3月発行  
大洲市立図書館

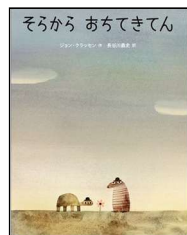




**4月**  
**世界の市場**  
 マリヤ・バーハレワ／文  
 アンナ・デスニツカヤ／絵  
 岡根谷 実里／訳  
 河出書房新社  
 2022年 ¥1820



**5月**  
**せかいいち  
 うつくしいぼくの村**  
 小林 豊／作・絵  
 ポプラ社  
 1995年 ¥1200



**8月**  
**そろから  
 おちてきてん**  
 ジョン・クラッセン／作  
 長谷川 義史／訳  
 クレヨンハウス  
 2021年 ¥2200



**9月**  
**ダンボール**  
 ユン ヨリム／ぶん  
 イ ミョンハ／え  
 わたなべ なおこ／やく  
 TOY Publishing  
 2021年 ¥1800

スーパーやオンラインでの買い物が当たり前になっても、多くの国で市場は大事な場所。イスラエル、チリ、タイ、スペインなど…世界24の街の市場の様子が描かれています。それぞれの国の市場にはどんなお店があり、どんな食材があるのでしょうか。市場を通して、食や環境、地域性を楽しく学ぶことができ、世界旅行気分も味わえます。

アフガニスタンのパグマンは、春は花が咲きほこり、夏はさくらんぼなどのさまざまな果物が取れる、美しい村。そこで暮らす少年・ヤモの目線で、戦争の中でも明るくたくましく生きる人々の姿が描かれます。あたたかな気持ちになったあとに、衝撃的な最後の一文。平和について考えるために、長く読み継がれてほしい絵本です。

カメとアルマジロと無口なヘビが大阪弁でやり取りをする、シュールで面白いお話です。本人たちの気づかない内にいつの間にか危機的状況に陥り、ギリギリで危険を回避していきます。思わず「危ないっ！」と声が出そうなドキッとする展開から、まさかの結末へ。落ち着いた色合いが、大人な雰囲気への翻訳絵本です。

ネットショッピングなどが普及し、買い物後に役割を終えた梱包材としてのダンボールは、ゴミとして大量に捨てられています。怒ったダンボールたちは、世界中のありとあらゆるものを食べつくした後、自身が木であった時代を思い出すのでした。環境について私たちができることは何かを、身近なところから考えてみませんか。



**6月**  
**だれのせい?**  
 ダビデ・カリ／さく  
 レジーナルド・クーンバレ／え  
 ヤマザキ マリ／やく  
 green seed books  
 2023年 ¥1800



**7月**  
**びんから  
 だしてごらん**  
 デボラ・マルセロ／作  
 なかがわ ちひろ／訳  
 光村教育図書  
 2022年 ¥1500



**10月**  
**うちのおかあちゃん**  
 小手鞠 るい／作  
 こしだ ミカ／絵  
 偕成社  
 2022年 ¥1300



**11月**  
**ときそば**  
 川端 誠／[作]  
 クレヨンハウス  
 2008年 ¥1600

ある日、クマの兵士が住む砦にダムの水が押し寄せてきた。「オレさまの砦をこわしたやつを まっがたつに きてやる!」と犯人探しを始めたが、突き止めた真犯人はまさかのクマ自身! 間違いは誰にでもある。難しいのは、過ちを認める勇気をもつこと。潔く認めた後、さらに自分でできることを考え行動したクマはとっても素敵!

「つよいきもちはやっかいだから」と、ルウェリンは“こわい”や“わくわく”といったいろいろな気持ちを瓶に閉じ込めて地下室にしまうようになりました。いっぱいになった地下室に無理やり押し込んだため瓶が割れてしまいます。自分の感情に振り回されず、でもその感情も大事にしていきたいものです。その感情も自分なのだから。

作家の小手鞠るいさんが、自身の母のことを岡山弁でつづった絵本。目が悪くて、口も悪い。三味線がうまくて、やさしくて美人!? そんなお母ちゃんの目がどう見えなくなって…。どんな逆境もパワフルに乗り越えるお母ちゃんの姿に、じーんときます。娘に心配をかけたくない、そんな母心も読み取れます。

寒い日の夜、店主をおだてながら屋台のおそばをうまそうに食べ終えたお客さん。勘定となり小銭を1枚ずつ出しながら、「いま何時だい?」とそば屋にたずねます。近くで見ていた男がなんだか変だと気づき…。広く知られる古典落語の絵本。二人のお客の対比がおもしろく、「いま何時だい?」を試してみたくなくなってしまいます。